

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

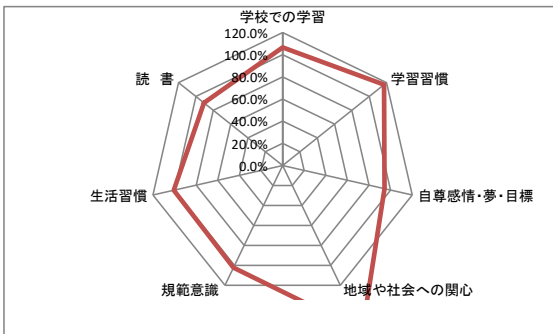
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な領域については、全国平均正答率を若干下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	書くことやその能力などについては、全国平均正答率を上回っている。	
	努力が必要な問題	言語についての知識・理解などが不十分な面がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率と同様、関数に対する知識・理科が不十分な面がうかがわれる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数学的な見方や考え方、技能においては、全国平均正答率よりも若干下回る程度で、向上する余地がある。	
	努力が必要な問題	関数の領域において、今後も努力が必要である。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っており、全体的な底上げが必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	読むことについては他項目に比べて平均正答率が高い。	
	努力が必要な問題	書くことについては、今後も努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣においては、一人ひとりの学習に対する意識がかなり高いことがうかがえる一方、自信のなさや、自尊感情などに影響を与えており、本来もっている力が発揮できていないと思われる。 ・地域と連携した活動が多く、多数の生徒が積極的に参加しているため、地域や社会への関心は非常に高い数値を示している。 ・今以上に家庭と地域で連携し、ほめて育てる活動を重視し、自尊感情を高める取り組みを行っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

スクールプランに即し、今後とも授業改善を継続して行っていくとともに、各考査や診断検査に向けて週末課題として、1問アップの取組を行っていくよう働きかけを行うとともに、吉田ノートの取組を徹底していくようにしている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

基本的な生活習慣は十分満足できるものと考えているが、自己肯定感の低さや目標に対する意識が低い。半面、地域とのつながりが非常に大きい。今後、地域を含め、保護者、学校とともにほめて育てるなど、自尊感情を高める取組を行っていく必要がある。